

令和元年度 中央区立銀座中学校 外部評価報告書

評価委員：堀内委員長、倉澤副委員長、中野里委員、高安委員、三浦委員、中村委員、  
竹田委員、鈴木委員

報告書作成者：倉澤 副委員長

評価時期 令和2年3月

1 重点目標の評価

重点目標1について

- ICT機器を活用した授業を推進するために、学校が計画的に研修を進め指導内容の工夫を行ったことは、生徒の学力向上に大きく寄与している。
- 生徒は落ち着いて授業に取り組み、意欲的に学習する姿勢が伝わってくる。
- 生徒の読書量が減少しており、朝読書の計画的な取組を進め、図書館の蔵書の充実と放課後開放を行うなど改善が必要である。

重点目標2について

- 生徒の状況について学校が定期的に確認を行い、情報を共有する取組が行われている。保健室や相談室と連携し、個に応じた対応を組織的に行っている。
- 生徒会いじめ撲滅運動、道徳の授業、学級活動等でのいじめの未然防止に努めている。
- 通常学級と特別支援学級の交流授業が定期的に行われ、生徒の活動に加え教員の交流と連携が進んでおり、生徒の相互理解が進み思いやりの心が育てられている。

重点目標3について

- 生徒が主体となった挨拶運動を実施するなど、生徒の基本的な生活習慣を身に付けさせる取組を行っている。スマートフォンやSNS使用のルールやマナーについての指導は、保護者の理解と協力を得て一層充実させる必要がある。
- 職場体験学習や生き方教室を実施し、生徒に将来について考えさせ、自己実現のための指導を行っている。今後も学校の取組を地域で応援していきたい。
- 行事の取組では、生徒一人一人に役割が与えられ、活躍の場が設定されており、主体的な活動となるよう工夫されている。

2 今後の改善に向けた意見

- 立場の違う意見を受容し、多様性を認める社会づくりが求められている中で、生徒が社会の変化に興味をもち進んで関わる意欲を高める必要がある。
- 学校評価を活用し、教育活動を検証するためには、評価項目と指標が明確であり、経年変化が見られるよう比較することが大切である。

3 その他の意見

- タブレット端末を利用した授業の充実が求められる中で、これまでの学校の取組の良さや体験活動を十分に取り入れ、生徒に実物や本物に触れる機会をつくってほしい。
- オリンピック・パラリンピック大会は一生の財産となる貴重な機会であり、生徒に豊かな体験ができるよう取組を進めてほしい。
- 学校の取組と改善点について説明をする姿勢から、組織的に教育活動を進めていることが感じられる。